

令和4年度第1回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 令和4年10月20日(木) 10:00~11:30
- 2 会 場 北海道立函館美術館 講堂
- 3 出席委員 仲井会長、木村副会長、今村委員、川村委員、熊木委員、小泉委員、桜花委員、佐藤委員、武井委員、梨木委員、吉田委員
(欠席委員：石岡委員)
- 4 傍聴者 報道関係者1名(北海道通信社)
- 5 議 事

(1) 報告事項

ア 令和3年度事業実施状況について

事務局：資料1に基づき説明。

委員：学校連携の項目があるが、学校観覧とは別なのか。実際、どれくらいの学校が観覧に来ていて、その場合の入場料はどうなっているのか。

事務局：学校観覧については、学校単位で観覧申込みのあった学校の人数を計上している。また、教育目的で当館を利用していただく場合は、引率教員を含めて観覧料は免除となっている。正確な学校数はこの場では資料がない。

委員：本校でも美術部だけで観覧したり、特別支援学級で観覧したりするが、無料で利用させていただいている。

委員：どれくらいの学校が観覧しているかわからないが、子どもに見てもらうのはある意味近道で、収入にはならないが、そういった活動が盛んになるのは大きいと思う。現実問題としては、観覧料は無料であっても、足代がかかったりして簡単ではないと思う。市と協力して、市電を利用して見に来るなど、学校観覧が盛んになる取組を期待したい。

委員：アートにタッチやお絵かきコーナーなどが通年で実施できない状況であるが、再開の目処はついているか。

事務局：アートにタッチや図書の閲覧コーナーなどは現在も中止している。不特定多数の方が触れることもあり、職員が付いて消毒することも難しい。今後、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、再開を検討してまいりたい。

イ 令和3年度道立美術館評価に係る評価結果について

事務局：資料2及び資料2(補足)に基づき説明。

委員：指標値の設定は、新型コロナウイルスが感染拡大する前に決めたものなのか。感染拡大後に決めたものであれば、もう少し指標値が低く設定され、評価も良くなったのではと思った。指標値はどのように決めているのか。

事務局：指標値については、過去5年の実績の平均を取っている。決める時期は、年度末に実績が確定後、その数字も含めて過去5年間の平均を出し、次の年度の指標値を決定している。

委員：評価指標は全道統一なのか。

事務局：評価項目は共通であるが、指標値は当館の実績を基にしている。

委員：評価項目については、全体で見直す話も前々回の協議会で話があったが、そこから進んでいるのか。

事務局：美術館評価の見直しについては、昨年度までの予定では、令和4年度から新しい評価制度で実施する予定であったが、現在、道教委の文化財・博物館課において新しい要綱の制定作業を行っているところである。今年の8月に示されたスケジュールでは、来年1月に新しい評価要綱案が示され、2月頃に各館の協議会委員の皆様にお諮りして意見をいただき、令和5年4月から新制度での運用を目指しているところである。

改正の概要としては、現在6本ある基本運営方針を4本に整理すること、5年後、10年後といった長期的視点に立った運営目標の設定を行うこと、また、評価対象を「美術館の活動状況全般」から「重点的に取り組む事項」に変えること、評価指標の項目を全館共通から各館の目標に応じた指標とすることが検討されている。予定であるが、今後第2回の協議会において、皆様に新しい評価制度の案をお示しできる状況となっているため、その際はよろしくお願ひしたい。

(2) 協議事項

ア 令和4年度運営計画について

事務局：資料3に基づき説明。

委員：大変多岐にわたり工夫していただいていると感じる。函館市教委も博物館系の施設を5つ抱え、いかに来館していただくか様々な工夫をされており、同じような悩みを持っていると考えている。現在、函館市教委で5つの博物館系の施設を総合ミュージアムとして統合することを検討している。先ほど蠣崎波響の話もあったが、書の部分など、かぶっている部分もあるので、そういう点で総合ミュージアムを市民の皆様の意見を聞きながら慎重に進めようと思っている。今後、どのように進めていくか見通せない部分もあるが、今後も連携させていただけたらと考えているので、よろしく願ひする。

委員：興味のある内容が多くあり、是非来させていただきたいと思った。私は奥尻町ということで、地域との連携というか、もっと外に出て、様々な交流ができればいいと思う。実際に作品が来た地域の方はすごく喜ぶというか、何年たっても「あのときは良かったね」と言われることがすごく多い。私が居なかった時に来た美術館の作品も、「あれはすごかったんだよ」と語り継がれているものも多くある。コロナ禍で大変な部分もあるが、収まった暁には是非、離島や檜山地域にも来ていただき、芸術に触れる機会があればと思う。今までもたくさんやっていただいていると思うが、また是非来ていただけたらうれしいと思っている。

委員：子ども達が、市内研修などで自分達で行きたい施設等を選び、半日市内を歩くというものを今まで何回か体験してきており、その時に初めて自分たちで調べた施設が、函館市内の学校ということで無料で入館できることを知ると、と

たんに興味を示して、函館中の施設を調べて、ここも行ってみたいということになる。その時に私も自分の子どもを連れて、近所の子ども達も一緒に探索するような形でこちらを利用させていただいたことがある。ちょうどコロナが流行る直前の3年前の秋に利用させていただいた時も、子ども達もほぼ初めての体験のような形で常設展示を見させていただき、自分達のお小遣いで「特別展示の方も見えるね」と言って入らせていただいた。今、そういった市内研修の機会も短時間になったり、回数も減らされているような状態だが、恐らく来年、再来年になるともう少し回復していく兆しが見えてくると思うので、また子ども達も来る機会が増えるのではないかと思う。私達もまた一緒に来たいと思い、内容を見させていただいた。

委員：先ほど江差屏風と松前屏風の公開についての話があったが、その件について、今、東京国立博物館で開催している国宝展の中で、8K映像とか4K映像の公開も合わせて行っている。江差屏風と松前屏風については、我々が行っているミュージアムITで超高精細デジタルデータを撮影済みであり、鑑賞についての実験を行っている。その中で、一人一人描かれている人を全部拡大して見ていくと非常におもしろい。また、松前と江差の方にお聞きすると、地形があまり変わっておらず、今、ここがどこかということが屏風から推定できると仰っている。屏風の鑑賞では、なかなか現物に照明を強く当てることができないため、小学校とか中学校とか高校の生徒に、しっかり楽しく見ていただくようなことに繋げる深い鑑賞を、高精細デジタルデータなども使っていればと思う。他の展示計画の中でも、現物をはっきり見せるために照明を当てることは、保護の関係から難しいと思うので、そういった工夫もしていただけると、もっと深い鑑賞になると思う。どうしても、絵の前を数秒で通り過ぎる方もおり、もったいないと思っていたので、そういうこともお考えいただければと思った。

委員：様々なことがこのご時世で中止になる中で、皆さん大変な苦勞をされながら実施してきたという感想を持っている。そういう意味では、前年度に比べて入館者数が減ったとあったが、この状況の中では、それほど比較対象にならないのかなと思って聞いていた。今、世の中が少しずつ良くなって動き出してきた。先のことはわからないが、少しずつ幅を広げられるのであれば、その時からがスタートと考え、通常に戻っていったら、前回より少しでも多く足を運んでいただけるような工夫ができればいいのかなと思った。

委員：たくさんの取組をお聞きし、とてもたくさんの工夫がされていると知った。一市民として知らなかったことがたくさんあると驚いている。私の周りにも同じことがあるかとも思いながら聞いていた。早速教えてあげたいことがいくつかあった。どうしても、元々それほど美術に興味のない方々で、なんとなく好きだという方々にとっては、有名な作品が来ると「行ってみよう」と、動機付けは簡単などころがあるが、名前を知らない作家のイベントに関しては、「知らないな」で終わってしまう。ただ、いろいろ拝見して、道南ゆかりの作家の所蔵だったり、関係の方々とのご縁づくりに卓越されていることを考

えると、そこの部分のマッチングというか、そこをお知らせしたいという気持ちになった。また、評価項目で、コロナ禍で仕方ないというのはあるが、客観的データとしてアンケートの回答を拝見すると、教育普及プログラムの満足度は98.1%と非常に高く、そこが卓越していると思った。今、説明を聞いて、学芸員の皆さんの思いが、道南ゆかりの作家の所蔵だったり展覧に繋がっていると思う。例えばSNSを活用し、連絡事項的なものだけではなく、今、伺った江差屏風とか松前屏風の話は、すぐ誰かに話したいようなエピソードという感じがして、そういったことが学芸の皆さんから発信されることで、動機付けになる可能性があると思った。後は、ロケーションが大変素晴らしいので、この敷地というか、建物の外も美術館と捉えることができれば、見て帰るといふより、時間を過ごすという提案ができると思う。また、バスの時間や車のない方のために、例えば会期とセットした循環バスなど、遠くの方が来られるものがあつたらいいと思った。

委員：屋外の利用も、土地とか建物の関係があるでしょうが、その辺は市教委ともいろいろやりとりして、屋外を使った企画ができればと思う。

委員：今年の9月までの来館者数を拝見すると、あと半年残しているが昨年度の人数に迫るくらいの来館者があり、本当に良かったと思う。コロナ禍の本当に大変な中で工夫されて取り組まれていることが報告でも伺えたので、出来ない、しょうがないではなく、ちょっとした工夫というものを一生懸命取り組まれていることに敬服する。その中で、大学とのキャンパスパートナーシップ制度は、以前は取り組まれていたが、今はゼロになったのはなぜなのか。次にどこかということがあるのか教えていただきたい。

事務局：北海道教育大学函館校に、令和2年度までキャンパスパートナーシップ校として利用していただいたが、予算が絡むことになるため、その予算が厳しいということでお断りされた状況ではある。現在、来年度に向けて新たな大学の目処はないが、また利用していただけるよう、取組を検討してまいりたいと思っている。

委員：なかなか、財源を持ってくるのは難しいところである。私立大学であれば学費からということもあると思うが、美術館側だけではなく、学校側だけではなく、行政とも何かできたらいいと思う。とてももったいなく、残念だなと思った。もう一つ、今、絵本コーナーは使えないとのことだが、絵本の読み聞かせは、様々な年齢層の方が来ることを想定して取り組まれていたかと思うが、単純に本の読み聞かせに限れば、一時コロナの緊急事態宣言の時は止めていたが、図書館や蔦屋書店などでは復活しているので、絵本を全部触ってよい状態にできないから中止していると思うが、少しでも足が向きやすくなるために取り組まれているのであれば、出来ないことではないと思った。よその状況を見ると、四季の杜公園でも今年から復活しているので、感染対策とっていれば、可能性はあるのではと思った。